

## 2008 年度教育活動顕彰制度の各賞の選考にあたって

教育活動顕彰審査選考委員会

### 【総 評】

2008 年度から新たに施行した教育活動顕彰制度による初めての選考は、2008 年度の 2 回の教育活動顕彰審査選考委員会（以下、委員会という）において審査等に関する方向性を定め、それに沿った資料に基づいて 2009 年度に開催した 2 回にわたる委員会で厳正に審査を行い、各賞の受賞者( )を決定した。

教育活動優秀賞の選考においては、年度当初に実施要項にて公表した各ポイントを集計することによってその審査ポイントをより明白にしたことが旧制度との大きな違いとなっている。また、後述の選考基準に「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」の要素を加えたのは、本学が F D 重点目標としている『魅力ある授業づくり』への取り組みが必須の教育活動であると考えたからである。ただし、選考基準 は、これらの取り組みが初年次であったために、今回の選考ではその基準を 50%以上と設定したが、本来であれば本学教員全員が 100%であることは言うまでもない。

委員会では、これらの選考基準を各学部対象者に対して按分して決めた表彰者数を基本に、集計されたポイントの上位者から総合的に最終候補者の選考を行い、12 人の受賞者を決定した。これは、教育活動顕彰制度実施要項に規定されている条件に該当する教員 245 人（参考：2008 年度全在籍教員 423 人）の約 5%にあたる。

なお、教育活動優秀賞は、評価項目として「学生による授業評価」を含むために学生の在学期間、あるいは教員の学務担当期間による評価の固定化に繋がる恐れがあると考えた結果、委員会における申し合わせにおいて、その授賞は 3 年に 1 度とすることが決定しており、2008 年度受賞者は、2009 年度、2010 年度は受賞者にはならないが、その間も積極的に教育活動に取り組まれることを強く望むものである。

教育活動特別賞の選考においては、それぞれ異なった推薦事案に対する審査方法から検討を行い、後述の予備審査、最終審査という 2 段階の審査を経て受賞者を最終的に 1 組に決定した。すなわち、教育活動特別賞の選考では、あらかじめ受賞者を何組というような前提を作らずに、各候補者を相対評価でなく絶対評価して、選考委員による投票結果を踏まえて受賞者を決定した。今回、教育活動特別賞の選考を終えて、授賞を決定する際の大きな評価要因は、その取り組み内容はもちろんであるが、その取り組みによって実際に効果実績が認められるかどうかであった。学外から評価を受けた取り組みについては、現在進行形のものが多く、本学学生に対して客観的に実績（成果や効果）があったかを判断できる情報が不足していると判断され、今回の選から漏れた。従って、今回、授賞に至らなかった候補者の取り組みを否定するものではなく、本学学生に対する実績が判然としたときに、教育活動特別賞を授与すべきものとして、一層の実績を積まれることを期待するものである。

以下に教育活動優秀賞および教育活動特別賞、それぞれの選考経緯を記す。

### 【教育活動優秀賞選考経緯】

教育活動顕彰規程に規定されているとおり、年間を通して大学に出勤し、卒業研究を除いた学部授業を年間6コマ以上担当した教員で、以下の選考基準を満たしたもののなかから総合的に判断して学部ごとにそれぞれ受賞者を選考した。

#### 選考基準

総合評価ポイントの順位が評価学部内表彰対象者の中で上位20%以内である。

学生による授業評価ポイントの順位が評価学部内表彰対象者の中で上位20%以内、かつ全学の授業評価ポイントの平均(12.0P)以上である。

\* 授業評価ポイントは、春学期、秋学期の担当授業科目における学生による授業評価での設問1～7までの平均ポイントと設問8の平均ポイントを3倍にしたものの和(50点満点)を15点満点に換算したもの。(教育活動顕彰制度実施要項から)

年間を通じて、教員の授業自己評価の回答率、および授業評価結果に対するコメント記入率が50%以上である。

### 【教育活動特別賞選考経緯】

各学部等から推薦された候補者は、全学で組織が3組、グループが1組、個人が3人の計7組であった。第1回審査選考委員会では、推薦者からの推薦理由の説明を受けて下記の3項目について候補者ごとに予備審査を行った。

予備審査項目(各項目の評価以外にコメントの記述も求めた)

#### 1) 候補者が組織の場合

項目 : 取り組みが独創的で効果実績(実践の効果)が認められるか?

項目 : 学生へのアピール(学生から評価が予想されるか)があり、かつ、対外的にアピールできる取り組みと思うか?

項目 : 特別賞に値するか?

#### 2) 候補者が個人、グループの場合

項目 : 効果実績(実践の効果)が認められるか?

項目 : 学生へのアピール(学生から評価が予想されるか)があると思うか?

項目 : 特別賞に値するか?

第2回審査選考委員会では、予備審査結果や各委員からのコメントを参考にして「適・否」による最終審査(無記名投票)を行い、総投票数の4分の3以上の賛意を得た候補者を受賞者とした。なお、予備審査、最終審査とも推薦者は、該当候補者の投票には加わっていない。

受賞者は、委員会で授賞候補者を決定した後に、学長決裁を経て最終的に決定されるが、本文では紛らわしいので委員会での授賞候補者を「受賞者」と称した。